

心理学部 父母会会報



D O S H I S H A
U N I V E R S I T Y
Faculty of Psychology

No. 08

June.2013



DOSHISHA UNIVERSITY Faculty of Psychology

真理之囚人コソ真ニ自由ノ人ナレ

―新島襄全集2

451頁



新島八重薙刀姿



新島旧邸外観

■ ご挨拶	4
■ 父母会ニュース	6
■ 2012年度決算・2013年度予算・2013年度事業計画	7
■ 都道府県別会員数・入試別入学者数	8
■ 学生レポート1 「The 新入生」	9
■ 学生レポート2 「ゼミ探訪」	10
■ 就職情報1 「第一部 卒業生進学・就職体験談」	12
■ 就職情報2 「第二部 パネルディスカッション」	14
■ 就職情報3 「卒業生 就職アンケート」	16
■ 就職情報4 「2012年度就職活動状況」	17
■ わたしの学生生活	18
■ ご父母より	20
■ 教員メッセージ	21
■ 新任教職員紹介	22
■ 学部インフォメーション	23

「豊かで力強い人間力」

若葉青葉が目まぶしい季節となりました。京田辺キャンパスも、太陽の優しい光を浴びてキラキラ光る緑と、レンガ色の学舎のコントラストは、とても美しく心を和ませてくれています。

新入生のご父母の皆様、ご入学おめでとうございます。

心理学部父母会も今年で無事5年目を迎えることが出来ました。在学生のご父母の皆様方には、平素より父母会の活動にご理解とご協力を賜り深く感謝申し上げます。

さて、4年間の学生生活は、長い人生の中で短い期間ではありますが、先生方を始め部活動やサークル活動を通じ、多くの人と出会い、また、さまざまな経験をする事で、豊かで力強い人間力を養える、密度の濃い4年間になって欲しいと願います。

父母会では、教職員の方々や大学との架け橋となれるよう私たち親自身の交流を深め活動を充実させたいと思っています。

現在行っている活動といたしましては、新入生父母交流会や懇親会、地方懇談会などがあり、中でも全国各地で開催される大学の「キャンパスフェスタ」と同時開催の地方懇談会では、先生方と具体的な内容を話せる「個人懇談」や大学全体による多彩なプログラムが用意されており、たいへん貴重な機会です。

今年は、NHKの大河ドラマ「八重の桜」が放映されており、八重さんの生誕の地である福島でも開催が予定されています。

このような行事を通して、大学のことや学生達の様子を知っていただくことで、お子様とのコミュニケーションを深めて頂ければ幸いです。

最後になりましたが、教職員の方々には父母会の活動・運営にご尽力頂き、また、子供達をあたたく見守って頂き、心より感謝申し上げます。



父母会会長 池田 厚子



「京田辺キャンパスにある心理学部のこれから」

今年の4月で心理学部は5年目を迎えました。最初の卒業生を3月に送り出すことができ、学部内の教育・研究体制もやっと落ち着いてきたところです。

さて、ご父母の皆様もご存知かと思いますが、今年の4月から同志社大学では大きなキャンパスの再編成が行われました。文系学部の学生は1年次生から4年次生まで一貫して今出川キャンパスで教育を受け、理系学部の学生は京田辺キャンパスで教育を受けることとなりました。したがっておよそ二万人の学生が今出川キャンパスにおり、京田辺キャンパスには八千人の学生がおります。学生数の減少から先生方の中には京田辺キャンパスの活性化に懸念を抱いている方もおられます。

しかし、私は心理学部にとってこの環境が大きな飛躍のための原点になるのではないかと考えています。

一つには理系の学部が京田辺キャンパスに集り、心理学にとって学際的な教育や研究がしやすくなったという事が挙げられます。生命医科学部やスポーツ健康科学部などの心理学と関連の深い学部が隣接しており、これから学生の相互交流も盛んになって行くと考えられます。また、落ち着いた環境の中で隣接した学問領域に刺激を受けながら、学生自身が心理学とは何かを考え、本当に自分の目指したい将来像を見つめ、そのための知識を蓄積していくことができると考えているからです。心理学部の1年次生から4年次生までが同じキャンパスにいて、学年間の交流も盛んになり、このことが大きな教育的な成果をもたらすと思います。

卒業論文をはじめ心理学の研究は、徒弟制とも言えるような側面があります。実験機器を動かそうとすれば、やはり教科書やマニュアルに書いてあることだけではうまくいかないことが沢山あります。当然そういったことに関しては教師が教えることになりますが、やはり、その機器を動かしている先輩の手伝いをしながら覚えていくという事が多いと思います。またその過程で研究の面白さを実感していくということがあります。

大学の勉強は、自分で興味を持ち、おもしろがって掘み取ってゆくことが大切です。京田辺キャンパスで学生が学問の楽しさに触れてくれるだろうと期待しているところです。このようなプロセスの中で身につけた自ら学ぶという姿勢は、一生その人の支えとなるものと確信しています。広々とした京田辺キャンパスの中で沢山の学生に自ら学ぶという青春の充実した一時期を送って欲しいと願っております。



心理学部長 佐藤 豪

■ 父母会ニュース

2013年度父母会総会報告

5月18日(土)、夢告館302教室において、2013年度心理学部父母会総会が開催され、あわせて行った就職講演会・懇親会ともに、父母・役員・教員を含む119名の方々に出席をいただきました。

総会では、池田新会長・佐藤学部長のご挨拶、主催者紹介(役員・参与)に続き、「2012年度決算・事業報告」「2013年度役員(案)・予算(案)・事業計画(案)」について、それぞれ審議の結果、承認されました。

就職講演会では、第一部卒業生による講演、第二部教員も交えてのパネルディスカッションを行いました。卒業生には大学院進学・心理専門職就職・一般企業就職の実体験のお話、パネルディスカッションでは主に父母の質問にお答えいただきました。(詳しい模様は、12～15ページに掲載しています。)懇親会では、終始和やかな雰囲気です時間が過ぎ、教員や父母同士の学年問わず交流をはかる良い機会になりました。



定期総会



懇親会

参加者アンケートより一部抜粋

- 大学の父母会大変良かったです。大学生となると学校の様子を話す時間も少なく、良いチャンスをいただけたと思っています。
- 卒業生の講演はとても元気づけられます。資料を配布していただければ解りやすいと思います。
- 就職支援について、今後子供が就職活動をしていく上で、有利になるためのツールや、どんな学生が良い就職をしているのかを専門家から話を聞けたらいいと思いました。
- 「心理学部」とはどんなことをして、どんなところへ就職するんだろうと、闇につつまれた感じでしたが、霧が晴れたように感じました。

2013年度心理学部父母会役員 (敬称略)

【父母役員写真】



(後列)村岡・乳原・達知・友成
(前列)相川・佐藤・池田・有井・藤田

【役員】

(会 長) 池田 厚子(3年)	(副会長) 有井 潤子(3年)
(副会長) 佐藤 由美(3年)	(監 事) 乳原 和美(2年)
(委 員) 相川 章代(2年)	(委 員) 藤田 直美(2年)
(委 員) 友成 由美(1年)	(委 員) 達知恵美子(1年)
(委 員) 村岡 順子(1年)	

【参与】

佐藤 豪(学部長)	神山 貴弥(教務主任)
竹原 卓真(学生主任)	柳澤 政宏(事務長)

■ 2012年度決算・2013年度予算

(2012年4月1日～2013年3月31日)

(単位:円)

	項 目	2012年度				備 考	2013年度
		予 算	決 算				予 算
			父母会計	大学会計	小 計		
収入の部	前年度繰越金	1,649,818	1,649,818	0	1,649,818		2,702,138
	会 費	3,600,000	3,798,000	0	3,798,000	年額6,000円 (父母4学年634名分)	3,600,000
	会合費	100,000	52,000	0	52,000	1,000円(懇親会参加者52名分)	100,000
	大学会計より	364,000	0	298,380	298,380		—
	合計	5,713,818	5,499,818	298,380	5,798,198		6,402,138
支出の部	会報発行費	1,200,000	720,300	0	720,300	年2回発行	1,200,000
	父母懇談会費	600,000	288,613	0	288,613	父母会懇談会開催 (会場使用料、湯茶代など)	600,000
	学生援助費	100,000	0	0	0	見舞金等	100,000
	学術研究助成費	200,000	145,577	0	145,577	講演会補助等	300,000
	教育補助費	300,000	311,937	0	311,937	学生向け教育支援(図書購入、 セミナー参加、施設見学など)	500,000
	謝 礼	50,000	21,128	0	21,128	会報誌原稿に対する謝礼、 学生アルバイト費	100,000
	慶弔費	100,000	0	0	0	会員宛供花料等	—
	集会費	150,000	12,600	0	12,600	役員会、参与会他	150,000
	人件費	800,000	800,000	0	800,000	職員人件費補助	800,000
	事務費	500,000	224,635	283,800	508,435	印刷費、郵送費(総会・懇談会 案内、会報・成績送付費)	600,000
	旅費・交通費	300,000	103,340	14,580	117,920	地方懇談会など旅費、交通費 (役員・教職員)	300,000
	雑 費	350,000	169,550	0	169,550	記念品、郵便振替手数料	350,000
	予備金	1,063,818	0	0	0		1,402,138
	次年度繰越金	—	2,702,138	0	2,702,138		—
	合 計	5,713,818	5,499,818	298,380	5,798,198		6,402,138

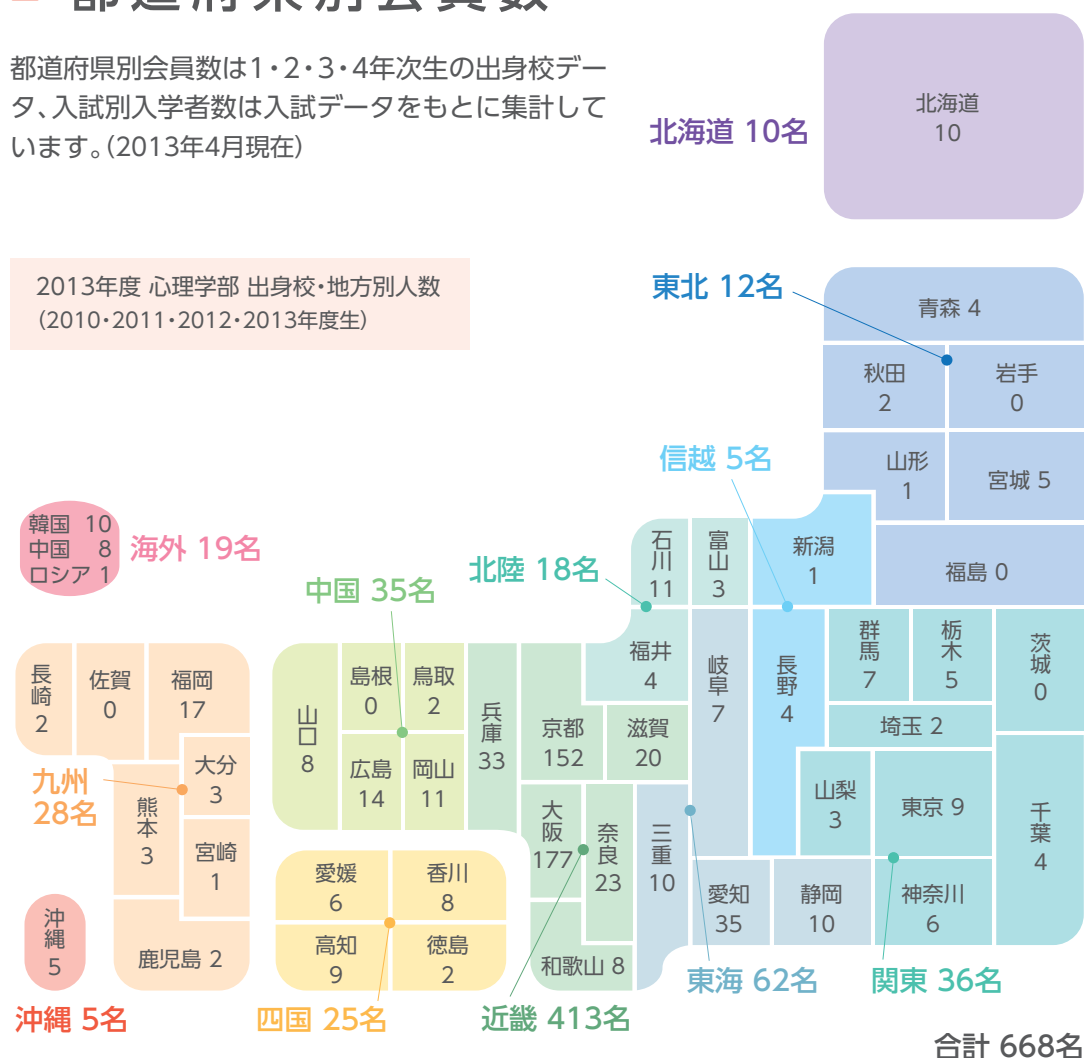
■ 2013年度事業計画

日 付	行 事	場 所
2013年4月1日(月)	入学式・新入生父母交流会	京田辺キャンパス
5月18日(土)	役員会・総会(就職講演会・懇親会)	京田辺キャンパス
6月ごろ	父母会報No.8(春号)発行	
7・10・11月	地方懇談会(キャンパスフェスタ)	岐阜(7/15)・福島(7/20) 東京(10/5)・大分(10/12) 高知(11/4)・秋田(11/17)・山口(11/24)
11月3日(日)	役員会 京都地区懇談会(同志社クローバー祭)	京田辺キャンパス
12月ごろ	父母会報No.9(秋号)発行および成績通知書 発送	
2014年1月	参 与 会	
3月	役 員 会	

■ 都道府県別会員数

都道府県別会員数は1・2・3・4年次生の出身校データ、入試別入学者数は入試データをもとに集計しています。(2013年4月現在)

2013年度 心理学部 出身校・地方別人数
(2010・2011・2012・2013年度生)



■ 入試別入学者数

心理学部 入学者数	入学 定員	一般 選抜 入試	大学入試 センター 利用入試	推薦入学					AO 入試	留学生 入試	3年次 転・編入	転学部	合計	総計
				公募制		指定校制	法人内 諸学校等	キリスト教主義 学校連携 ネットワーク						
				自己推薦	スポーツ									
2013年度	150	101	7	8	6	13	40	5		3			183	668
2012年度	150	80	10	8	6	16	40	5		5			170	
2011年度	150	85	2	8	6	12	39	4		8	1		165	
2010年度	150	71	1		5	17	39	4	7	3	2	1	150	

The 新入生

4月1日入学式が執り行われ、1年次生183名、3年次転入生1名が入学しました。その後すぐ、4月13日～14日新入生歓迎オリエンテーション合宿が行われ、研修を通じて心理学の心得を学び、スポーツ活動を通じて教員や同級生との交流を深め、大学生としての最初の第一歩を踏み出しました。

そして、本格的に授業も始まった新入生にいまの気持ちを聞いてみました。



大学の始まり

心理学部心理学科 1年次生

鴨脚 光貴さん

僕は同志社高校出身のいわゆる内部生です。加えて実家通いですから、大学という新しい環境に関してはあまり不安がありませんでした。あっという間に一ヶ月が経ち、新生活も落ち着き始めた今日この頃、ふつふつと感ずることがあります。

学部主催の新歓合宿の晩のことです。夕食やレクリエーションも終わらしたらと友達と話していると話題が将来の話になりました。聞くとみんなは「職業はあれになりたい。だからこの学部に来た。」「大学院に進むつもりだ。」など将来のビジョンや方向性がとても明確にあるようです。一方、特になりたい職業もなくその現状をなんとも思っていない僕はそんな自分が情け

なくなりました。数多くある大学のなかこの同志社大学の心理学部を選んだ人たちと比べると、僕がこの学部を選んだのは動機不十分だったのではないかとさえ思いました。その夜は、他にも受験の話など内部では知り得ないための話を聞き、とても良い刺激を受けました。

良い刺激といえば、内部からでも体育会で頑張っている友達がいます。たまに会うと愚痴や苦勞話を聞かされるのですが、やっぱり自分の好きなことを一生懸命全力で頑張っている姿には感心させられます。サークルであったり、部活動であったり、勉強やアルバイト、ボランティア、一生懸命になれるものというのは往々にして人それぞれにあります。しかし僕はまだそれが何なのかわからないままです。四年間という限られた大学生活のなかで、自由だからこそ選択肢が多いからこそ自分に合ったものを選別し、磨いていこうと思います。



心理学部に入って

心理学部心理学科 1年次生

奥田 脩平さん

気がつくと大学生になってもう一ヶ月が過ぎていました。最初はわからないことばかりで本当にたいへんでした。これから始まる大学生活のことを考えていると、楽しみでもありますが、同時にとても不安な気持ちにもなります。

高校とは違い、自分で履修登録をすることなど、大学では多くのことを最初に自分でやらなければなりません。そんなことも僕は知らなかったのです。履修登録においては、間違えがあると大変なので慎重に行いました。そして後日、決定した自分の時間割表を確認しました。すると火曜と土曜の第二外国語の授業が書いてあるはずの欄が空白でした。あれほど時間をかけて行ったのにも関わらず、上手く履修登録ができていませんでした。その時、大学生になっていきなり大変なことをしてしまったな、と思いました。頭の中が不安と焦りで

いっぱいでした。しかし教務センターの方のおかげで二次募集のことを知り、無事に履修登録をすることができたので、本当に助かりました。今回は何の問題も起きませんでしたが、一歩間違えば、たいへんなことになっていました。大学では何事も自由である代わりに自分の行動に責任を持たなければいけないということに改めて気づきました。

勉強ももちろん大切ですが、大学生の間しかできない大学生らしい生活を送ることができれば良いと考えています。大学生らしい生活というのは自分でもまだよくわかりませんが、サークルや他の活動にも積極的に参加していきたいと考えています。仲のいい友人はまだあまり多くありませんが、普段の生活や様々な活動を通してこれからもっと多くの人と出会い、気の合う友人を少しずつ増やして行きたいと思っています。

この一年間、心理学に必要とされる基本的なことやその歴史などをしっかりと学び、基礎的な力を身に付けていきたいと感じます。そして、これから様々な分野の心理学を学ぶことを楽しみにしてこの一年間頑張っていきたいと思っています。



青山 謙二郎ゼミ (専門: 学習心理学・行動分析学)



青山ゼミ

心理学部心理学科 4年次生

五味 佑吏恵さん

青山ゼミでは、青山先生の研究テーマに沿って研究を進めています。食行動の研究や、セルフコントロールの研究、マーケティングなど幅広い研究テーマからみんなで検討して各自の研究テーマを決めました。ゼミの4年次生は6人と少なく、すぐにみんなが打ち解けることができました。ゼミは初めはとても緊張していましたが、青山先生の人柄もあり、和やかな雰囲気楽しく行われています。青山先生は恐い先生であるという印象が強かったのですが、話してみるととても気さくな先生で驚きました。研究内容については、食品企業のマーケティングの実験を手伝わせていただく機会があり、よい経験ができました。実際のマーケティングを間近に見ること、具体的にマーケティングがどのように行われているかを知ることができ、とても参考になったと思います。特にパッケージデザインの研

究に興味を抱き、パッケージのデザインの一部を変えることで印象の変化や好ましさが増えるのかを研究しようとみんなでパッケージデザインのアイデアを持ち寄ってよりよい研究課題になるよう努力しています。

食行動の研究では、ある特定の食べ物が無性に食べたくなるというクレイビング(渴望)の研究が主に研究されています。クレイビングは主にチョコレートに起こると言われていますが、日本ではごはんにクレイビングが起こることが心理学部の小松さくら先生の研究によって明らかになり、文化によって様々であるということがわかってきました。青山ゼミでは、どのような食べ物にクレイビングがおこり、どのような刺激を与えればクレイビングが弱まるのかをラットや人を対象にして実験し、摂食障害などの緩和に将来結びつくような研究になるように日々研究を進めています。



Teacher's Voice

心理学部心理学科

青山 謙二郎 教授

個性豊かなゼミの皆よ、がんばろう

今年の青山ゼミは変わっています。昨年度の前半(春学期)在外研究に行っていた間に「恐い先生」という誤解を受けていました。果敢にもそのゼミに昨年度の後半(秋学期)から入ってきたのが今の4年次生ゼミ生です。その後、他のゼミから移籍してきた人や、大学院に他のゼミから移ってきた人々も加わりました。おまけに2名のゼミ生は青山ゼミですが、卒業論文は特任助教の小松さくら先生のクラスの登録です。色々な人が入り交じって楽しいゼミです。着々と卒業論文の完成に向けて進んでいきましょう(ちょっとスピードアップしましょう)。



畑 敏道ゼミ (専門: 生理心理学)



「大変」な畑ゼミの魅力

心理学部心理学科 4年次生
矢野 紗希子さん

畑ゼミでは、生理心理学についての研究に取り組んでいます。生理心理学とは、「行動」を「脳の働き」によって解明しようとする分野です。また、ゼミでの実験にあたり、主にラットを用います。ヒトよりも単純な系であるラットの行動を客観的に測定・操作し、脳内でどのようなことが起こっているのかを明らかにしようとしているのです。

私は、実習や授業を通じて神経科学に関心を寄せていたので、ゼミ選びの際には、いくつかのゼミに絞っていました。中でも、ゼミの説明会で畑先生がおっしゃっていた「正直、大変ですよ。」という本音がとても印象的で、畑ゼミを選ぶ決め手となりました。大学生活の集大成である卒業研究に、大きな達成感を求めているのです。ゼミ生となったいま、畑先生が言われていた「大変」という言葉の指すところは、2つあると感じています。1つ目は、費やす時間の多さです。ラットの行動訓練や様々な知識の習得には、ある程度時間が必要です。しかし、興味の芽先が同じゼミ仲間と共に行うので、得られるものがとても多く、費やす時間は惜しくありません。そして2つ目は、生命に対する責任です。実験で投薬や訓練を受けたラットは、ほどなく短い生を終えます。私自身、多くの動物の犠牲の上にある知識や技術を学ぶことに対し、大きな責任を感じています。かわいいラットと触れ

合う中、失われる生命を意識することで、より真摯に研究に取り組むことができるとともに、倫理観も育まれているように思います。

畑ゼミでは、各々が興味を持った先行研究に対してみんなでツッコミを入れ、そこから課題や改善点を見つけ、自分の卒業研究に繋げていきます。ゼミでは、どんどん意見を出す人、みんなの意見をじっくり聴いてから発言する人など、みんなが自分のやり方でゼミに参加しています。このように自由なスタイルで行う議論は、時折折れが入りすぎて、ゼミ終了後にぞろぞろとゼミ部屋に流れていき、議論の続きを始めることもあります。こうして、ひとつのことに取り組む時間を共有しながら、ゼミ仲間は信頼を深め合っています。

そして、いま私が取り組んでいるのは、ラットの時間弁別行動における神経学的基盤の研究です。これは、畑先生が継続的に取り組んでおられる研究テーマのひとつです。世界を支配している実体のない「時間」という概念に強く惹かれたので、卒業研究のテーマに選びました。畑先生やゼミ仲間に相談しながら、手術をしようか、脳切片を取り出して免疫染色をしようか、あれこれ思い悩んでいるところです。本気で取り組んだ先にある「達成感」の獲得に向けた、みんなの「士気の高さ」が畑ゼミの一番の魅力だと思います。



Teacher's Voice

心理学部心理学科
畑 敏道 准教授

我々は、岬の先端に立ち、

畑ゼミに來られて、人間の見方に新しい視点を付け加えることができそうですか？生きものを生かしている緻密なメカニズムに、静かに興奮していますか？事実が想像を押さえ込む、定型詩のように不自由で豊かな創造—科学—を楽しんでもらえていますか？「わからないこと」「だれもみたことのないもの」を目撃しようとする困難なプロセスに喜びを感じてもらえているでしょうか？私たちという未見の海を見るために、さあ、あの岬の先端に立ちましょう！

心理学部父母会就職講演会より（5月18日（土） 夢告館302教室）

■ 第一部 卒業生進学・就職体験談

2013年心理学研究科博士課程(後期)入学 ^{うえの もえこ} 上野 萌子さん



テーマ「研究者を目指して」

心理学部の卒業生は社会の様々な分野で活躍していますが、私はより高度な知識、技術を学ぶため大学院に進学しました。中学校から同志社にお世話になり、今年で13年目ですが、最初から研究者を目指していたわけではありません。

ただ子供が好きで、子供たちとかわかることで社会に貢献できたらと考え、教員免許を取得したり、児童館でのボランティア活動などを続けていました。

3年次生の秋学期からゼミがスタートしますが、私は子供の発達のメカニズムについて研究したいと思い、内山先生のゼミに入りました。同志社大学では乳幼児の発達メカニズムの研究が複数の学問分野にまたがり国際的に進められています。こういう環境の中にいて子供の発達を知り、それをもっと社会に還元できたらと考えて、大学院に進もうと決めました。

大学院の試験には英語と専門に関する論文、それに口頭試問があります。私は高校時代から英語が苦手だったのですが、英語で心理学の概論書を読んだりして、3年次の秋学期以降、入試のための勉強を本格的に始めました。周りの同級生が就職活動をする中で、卒業論文や試験勉強に専念し無事合格することができました。

大学院では「斜面に対する対処行動の発現メカニズムの解明」をテーマに様々な研究機材を使った幼児研究に取り組んでいます。2年間の博士前期課程では心理学の高度な専門知識や研究能力を幅広く習得するとともにプロジェクトの企画立案など実践的な訓練も行います。また、国内外での学会発表や米カリフォルニア大学バークレー校との共同研究にも取り組んでいます。

私は幸いなことに日本学術振興会の特別研究員（DC1）に採用され、本年度から3年間、奨励金を受け取ることができるようになりました。大学院生の中には前期を終えて就職する人もいますが、私はこれを励みに大学などの教育研究機関における教育者や研究者を目指していきたいと考えています。



2007年文学研究科心理学専攻博士課程(前期)卒業 ^{おがわ なお} 小川 奈保さん
(京都第一赤十字病院 心理判定員)

テーマ「総合病院で心理士として働くために」

私は京都第一赤十字病院で心理判定員として働いています。本日は医療機関で心理の専門職として働くとはどういうことか、就職するにあたってポイントはどこにあるかをお話したいと思います。

私は同志社大学と大学院で心理学を学び、大学院在学中に先輩の勧めで病院で心理検査などのアルバイトを体験しました。大学院を出た後も京都府立医科大学附属病院などいくつかの病院でいくつかアルバイトを掛け持ちしながら就職活動を続けましたが、一旦一般企業に就職した後、滋賀県にある豊郷病院の臨床心理技術者を経て京都第一赤十字病院に心理判定員として就職しました。

現在の業務は、心療内科での心理検査や個人カウンセリングのほか他の診療科への入院患者さんの精神的ケアや職員・看護学生のメンタルヘルスケア、看護師向けの研修会講師、ドクターの研究補助など多岐にわたります。

病院やクリニックへの就職にあたってどういったことが重要というポイントを3点挙げたいと思います

す。まず1点目は先輩や先生などとのタテ・ヨコのつながりを自ら築き、大切にすること。患者さんと接する上で、また多職種との連携でチーム医療を行う時にも人間関係を築くコミュニケーション力は必須です。心理士は一人職場が多いので院外に仲間がいると心強いし、勉強にもなります。また、人とのつながりから仕事を紹介してもらえこともあります。

次に興味のない未経験なことでもチャンスがあればやってみることをお勧めします。現場は多様な業務に対応できる即戦力を求めています。最後に素朴な心そのままにということを上げたいと思います。コミュニケーション力やテクニックを身につけることは大切ですが、自分の感情を抑えることで鈍感になってしまうと、患者さんの考えや気持ちに気付けない恐れがあります。素朴で柔軟な心を大切にしながらこの仕事を目指していただければよいと思います。

1996年文学部文化学科心理学専攻卒業 ^{つのかわ みずき}
角川 瑞喜さん
(株式会社電通勤務)



テーマ「就職活動について」

卒業して17年になります。就職した電通は広告会社で、トヨタやソフトバンクといった企業のキャンペーン、オリンピックやサッカーW杯などのスポーツイベント、ロゴやキャラクターの製作など幅広い領域で仕事を創っている会社です。

私は新聞局に所属していて、広告枠の調整や新聞社イベントに携わっています。東日本大震災の折、実感したのは、新聞はアナログな媒体ですが、手元に届いて実際にカラダで感じることができるということ。広告や事業を実施して、生活者の反応が伝わってきたときは、この仕事をしていてよかったと感じる瞬間です。

就職活動を始めたのは、3年次生の終わりです（阪神大震災がありました）。まず履歴書を書いてみるのですが、ものすごいパワーをかけたのに自己PR文章の稚拙さに我ながら愕然としました。判子が曲がっていると父親に指摘され、細かい部分まで気持ちを込める姿勢が大事だということを最初に教えられました。

小さい頃からボーイスカウトをやっていて、人間に興味があったのと「人を笑顔にする」、そんな仕事ができたら、と電通を志望しました。ですが現実には、自分が何者かを伝えるのは難しいし、志望動機につなげることの矛盾を感じていました。やったことはOB訪問をひたすら繰り返すこと。電通の2人の先輩との出会いが私にとってすべてでした。徹底的に人に会って、自分で感じる事が大切と教わりました。



OB訪問は業界各社なども含めて数十人しました。2、3人じゃダメです。わかったのは自分で経験したことでないリアリティがない＝伝わらない、ということです。訪問する度に、ダメだしをくらって何度も落ち込みました。でも続けていると、あるとき自分でカッコつけなくなる瞬間があるように思います。逃げないで自分と向き合うことをやった人が就職ってことだけでなく、いろんな意味で自分の糧になると思います。是非、いい経験をされて社会に飛び込んで頂きたいと思います。

■ 第二部 パネルディスカッション

コーディネーター

同志社大学心理学部 内山 伊知郎教授



内山 進路の異なるOB、OG3人にどんな勉強や仕事をしているか、大学時代にどんな気持ちで就職活動をしていたかなどを話していただきました。会場からの質問アンケートを交えて、さらに話を進めたいと思います。まず、上野さんですが、大学院進学のためにどんな勉強をしましたか。またご両親からはどんなサポートがありましたか。

上野 一番大事なことは授業をちゃんと受けて、きちんと理解すること。心理学概論の教科書を覚えしました。1年次生からやったことを復習し、英語も専門分野のことがたくさん出ますので、概論書などをたくさん読んで備えました。うちの家は「自分でやりや」というような感じでただ見守ってしてくれるだけでしたが、大学院まで行くには自分で努力してやり遂げる気持ちが必要だと思います。

内山 次は就職活動についてですが、教授の紹介がありますかという質問がきています。紹介状は必要であれば書きますが、いまはどんな職種にも万遍なく採用してもらっていますので、結局は自分でどうアピールできるかでしょう。角川さん、いかがですか。

角川 電通には毎年、同志社から平均して2、3人が入社しています。先生や両親、クラブの先輩など遠慮をせずに、どんどん相談したほうがいい。先生などから紹介してもらうことで、少しでも目標に近づくのであれば、チャレンジしてみるのはいいいことだと思います。

内山 小川さん、病院の場合はいかがですか。

小川 普通の就職活動と違って難しいことが多かったですね。臨床心理士は国家資格ではありませんので、病院に何人置かなければいけないという決まりもありません。常勤の仕事がないところもあります。私自身ももともとアルバイトしながら求職しているときは病院の先生や先輩に「病院で仕事したいのですがいいところないですかね」と話して、周りのできるだけ多くの方にアピールしていました。人のつながりの中で声をかけていただき、試験や面接を受けて今の仕事につきましたので、人とのつながりを大事にして誰かに声をかけていただけてすぐに動けるということが大事だと思います。

内山 ネットワークが大事ですね。面接で気を付けたことは何ですか。

角川 面接は5分とか10分の短時間の間に自分をPRしなくてはならない。どんなにいい中身でも注目してもらえなかったらおしまいです。姿勢は大事ですね。相手の眼を丁寧に見るとか、返事は大きな声

ではっきりするとか。面接官は一日に何人もの人と会っているの、話が聞きづらいのはだめですね。人に会って自分を見てもらい場数を踏むこと。練習の回数だけ面接の力は伸びると思います。

内山 OB訪問ですが、「会って感じろ」と角川さんはおっしゃいましたが、そう簡単に会ってもらえるものですか。

角川 大学やクラブの先輩、一人ひとりの方からまた誰かを紹介してもらいました。簡単に会ってもらえる時もあればそうでないときもあった。でも結局はやるか、やらないかです。

内山 すぐに就職が決まる人となかなか決まらない人がある。行きたいところがダメになった場合などにどう自分を高めていけばいいか。第一志望にどうしても行きたいから、ダメなら留年する人もいますね。

角川 難しい問題ですね。アベノミクスで盛り上がっていますが、就職戦線はまだまだ厳しいですよ。2年目で採用という人もうちの会社にはいますが、2年目でダメな場合もある。「自分はダメなんだ」と考えてしまうけれど、2年目なら同じ業界を幅広く受けてみるとかいろんな会社を受けて、選択肢を広げておくのがいいのではないかと思います。

内山 結局はいかに自分のモチベーションを高めるかということですが、臨床心理士として小川さんから何かいいアドバイスはありますか。

小川 一人で抱え込まないことが大事ですね。ひとりで考えているとどんどん落ち込んだ気分になる人もいますので、気軽に相談できるような相手としてご両親や家族の存在は大きいと思います。

内山 話は変わりますが、学生時代に心理学を勉強して、社会に出てから役に立ったということがありますか。社会人のお二人はどうですか。

角川 直接、心理学がでてくることはありませんが、人間を学ぶというか、向き合う基本的な姿勢が身につきました。卒論で笑顔がどう伝わるかという研究をしたのですが、今、コミュニケーションの仕事をしているので、少しは役立っていると思います（笑）

小川 私は心理学と直結した職場にいて、学んだことを使って仕事をしています。病院に入って大学で学んだことは役立っていますが、現場で学ぶことはプラスアルファが多いので、今後も人のつながりの中で勉強していきたいです。

内山 最後にそれぞれの立場から在校生や父母の皆さんに一言お願いします。

角川 最近の学生は、場の空気を読みすぎて大人しいとみられがち。個性をもう少し出してもいいかなと思います。今、感じるのは、自分が仕事で心がけていることが、結構就職活動の時に学んだことだということ。「人に会う」「気持ちの大事」「礼を尽くす」などです。皆さんも就職活動でいい経験を積んで社会に出て行ってほしいと思います。

小川 私は繰り返しになりますが、人とのつながりや人と出会うことを大切にしてほしい。心理士としての就職は難しいところがありますが、気長に考えてアルバイトなどを経験しながらチャンスをつかんでほしい。

上野 研究職になるためには、自分に自信があるかないかではなくて、努力できるかどうかにかかっています。モチベーションを高めて、頑張ってください。



■ 卒業生 就職アンケート



得田 真之助さん
(2012年度 心理学部心理学科 卒業)

- ① **職先名:**
京都府警察
- ② **公務員を目指すきっかけを教えてください。**
警察官を目指すきっかけとなったのは現役の警察官である父です。幼い頃から休みを惜しみます働く父の後ろ姿をみて、自分も父のように犯罪に立ち向かいたいと思い始めました。
- ③ **就職活動を始めた時期はいつですか。また何から始めましたか。**
私は民間企業や他の公務員を受けずに、京都府警察だけを受験しました。その為、採用試験の筆記試験対策の勉強しかせず、本腰を入れて勉強したのも筆記試験の4ヶ月前からでした。それまでは3日に1回最高2時間程度勉強していました。しかし、前年度(2011年度)の採用試験を高卒区分で練習として受験したり、警察官である先輩方から対策を教えてくださいなど、採用試験に関する情報収集は早い段階で行いました。
- ④ **採用試験についてお聞かせください。(内容や対策など)**
警察官の採用試験は都道府県によって違いますが、筆記試験、体力テスト、個人面接があります。しかし、ほぼ個人面接重視です。筆記試験対策は書店で売っている過去問を数冊するくらいで大丈夫です。そして面接では、公務員試験対策講座などで教えるようなことは参考にしない方が良いでしょう。何事も正直に自分の思うことを答えてください。面接官は現役の警察官だけに、嘘を見抜きます。
- ⑤ **採用試験はどのくらい受けましたか。**
2012年度第一回京都府警察官採用試験大卒区分だけ受験しました。一本に絞るというリスクのある行為ではありますが、受験資格を失うまで受け続けると思っていたので、落ちた場合のリスクは一切考えませんでした。
- ⑥ **就職活動中、授業は受けられましたか。
(就職活動と授業のバランスの取り方)**
授業は休まずに受けました。授業数が少なかったということもありますが、筆記試験の勉強と夜に数キロのランニングだけしていたので、授業との両立は出来ました。
- ⑦ **就職活動中、大学の支援はどうでしたか。**
筆記試験対策として、大学で実施されている公務員対策講座に申し込みましたが、警察官に特化したレベルのコースは無く、近いもので国家Ⅱ・地方上級コースでした。結果、ほぼ独学で勉強しました。しかし、大学の授業では就活を優先してもよいとのことでしたので、勉強に集中することが出来ました。
- ⑧ **就職活動を終えてどうでしたか。**
私は今まで警察官になることを目標に生活をしてきました。採用試験で合格が決まってから、ようやくスタートラインに立ったという気持ちでいっぱいです。これからは精神的にも体力的にも追い込まれる厳しい警察学校を乗り切らないといけません。
- ⑨ **就職活動の際、ご家庭から助けられた点、またはこうして欲しかった点などお聞かせください。**
私は就職活動について親から全く指摘を受けずに、そっと見守ってくれました。お陰様で自分のペースで何の迷いも生まれませんでした。金銭面での支援もたくさん頂き、親には感謝の気持ちでいっぱいです。
- ⑩ **在学生へメッセージ**
夢を持ってください。本当に自分がしたいことを見つけてください。警察官を目指すという方がいましたら、その選択は間違いないと思います。カッコ良くて綺麗な仕事はごく一部だと思いますが、職業として直接社会のためになること、犯罪を取り締まることができるというまさに天職だと思います。



名和 実咲さん
(2012年度 心理学部心理学科 卒業)

- ① **職先名**
富士通エフ・アイ・ピー株式会社
- ② **事前準備で必要なことをお聞かせください。**
“就職活動のために”特別なことをする必要はありません。ただ、もし何をすればいいのかわからない、不安と焦燥感ばかりで日々を浪費していると感じているのなら、とにかく行動することをおすすめします。ちなみに私は2週間の一人旅をしていました。淡々と列車で都市を移動しながら、会社で働く必要があるのかをじっくり考える時間になりました。今振り返ると、心の準備期間、つまり覚悟に要した時間でした。
- ③ **就職活動を始めた時期はいつですか。また何から始めましたか。**
9月末に企業のインターンシップに参加しました。右も左もわからないまま就職サイトに登録した際、インターンシップという存在を知りました。とにかくまずは参加してみようという気持ちで応募しました。夏休みには既に就職活動に取り組んでいる同輩もたくさんいました。
- ④ **会社訪問をした数はどのくらいですか。**
会社を訪問した数は約40社です。時期は11月から5月です。1企業の説明会が複数回開催されることがあり、実際参加した説明会の数は訪問数より多くなりました。
- ⑤ **面接は何回くらいありましたか。また、面接で印象に残っている質問やご自身で気づいた点は?**
受けた面接は全ての企業で約30回です。内定をもらった会社は筆記テストが1回と面接を2回受けました。
- ⑥ **就職活動中、企業との連絡はどうしていましたか。
(メール、携帯電話など)**
企業からは携帯での電話と、パソコン宛にメールをもらっていました。こちらからメールを送る時はタイプミスや書式を整えるために必ずパソコンを使うようにしていました。
- ⑦ **就職活動中、授業は受けられましたか。
(就職活動と授業のバランスの取り方)**
ゼミ以外の必要な単位は3年次生の前期で全て取り終えていたので、大学には週に2回程度通っていました。授業は興味のある講義を履修していましたが、説明会が入った際には自主休講していました。
- ⑧ **就職活動中、大学の支援はどうでしたか。**
講義によっては就職活動による欠席を考慮して下さいました。またキャリアセンターではエントリーシートの添削や就職活動に関する質問に丁寧に対応していただきました。ただ就活生で込み合う時期もあるので、当たり前のことですが、エントリーシートや面接の相談は余裕を持って取り組むことが大切です。
- ⑨ **就職活動を終えてどうでしたか。**
就職活動をいったんやめてからも、本当にこれでよかったのかと何度が思い悩むことがありました。
- ⑩ **就職活動の際、ご家庭から助けられた点、またはこうして欲しかった点などお聞かせください。**
有名な企業(一般消費者に認知されている企業)に就職することが成功だと考えていたように、将来について話し合った時は衝突しました。最後には私の考えを尊重してくれました。私のことを心配してくれているんだと感じ、心の支えになりました。
- ⑪ **在学生へメッセージ**
就活に成功も失敗ありません。就職活動は決してエントリーシートを書く活動でも、説明会で首をぶんぶんふる活動でもありません。なぜ働くのか、仕事と何かにについて考えるために与えられた期間なので、是非活用してみてください。
また周囲と比較して落ち込む必要はありません。私は説明会の参加数もエントリーシート提出数も面接へ呼ばれる回数も、周囲の友達より少なかったです。社会に必要とされていないと感じましたし、実際企業には必要とされていなかったのどうしようもありません。それよりもこんなすごい友達が周囲にいる自分はなんて恵まれているんだ…!と聞きなれるくらいの心持ちでいるようにしていました。自分の心と体の管理は仕事においても、就活においても重要です。つまり無理せず、自分のペースで取組んでください。大学や家庭、先輩や後輩、友人など、あなたの思い、支えてくれる人はたくさんいます。就活をきかけにしっかりと頼って、存分に感謝を伝えることもおすすめします。
みなさんが社会の一員となり、あなただけの価値を社会に還元する場と出会うことを祈っています。

■ 2012年度就職活動状況

心理学部就職支援委員長 内山伊知郎教授



おかげさまで本年3月に心理学部で初めての卒業生を社会に送り出すことができました。卒業生数は、昨年までの60余名から150名と大きく増えています。ただ、大学院進学者なども比較的多く、87名の就職希望者のうち内定者は84名と内定率96.6%でした。昨年の90.9%に比較すると微増しています。就職先は、金融やメーカーが多くを占めており、複数者の同一内定先は、金融やメーカーとなりました。本年はディズニーランドを運営するオリエンタルランドに複数名が内定したのもひとつの特徴でした。

就職活動は、3年次生の秋から始めているようですが、企業の業種選択、そしてエントリーシートの作成などに力を注いでいるようです。企業選びは、企業の規模、それから業種などが要因となりますが、大規模な企業を選ぶのか、自分のしてみたい業種を選ぶのかなど迷いはあることと思います。個人の価値観が反映されますから、日頃から社会に目を向けて、将来を考えることも必要なことかと思ひます。エントリーシートに関しては、書き方の書籍も販売されているようです。大切なのは、大学時代に何をしたかを考察することです。最近では、学部卒業ですと学問の専門性は低いと判断されます。そこで、むしろ、どの学部にも共通した学生時代の過ごし方を尋ねられます。勉強や資格取得でも、サークル活動でも、何でもよいのですが、何か学生時代を通して、達成感のあることが見つけられると心強いでしょう。

本学も企業のインターンシップを斡旋したり、就職支援ガイダンスを開いたりしています。それを利用したり、積極的にOB・OG訪問をしたりすることが望まれます。社会の一員となるために積極性を発揮するのもこの時期の発達課題のひとつでしょう。

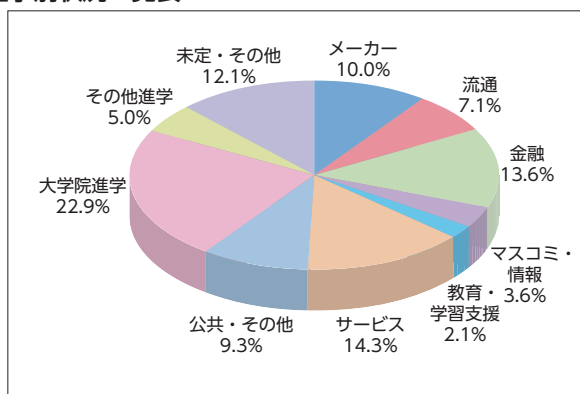
2012年度(2013年4月) 心理学部心理学科 進路データ

就職内定状況一覧表

就職希望者数			内定者数			内定率			昨年度
男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計	
25	62	87	24	60	84	96	96.8	96.6	90.9

就職業種別・進学別状況一覧表

		男	女	合計	%
就職	メーカー	6	8	14	10.0
	流通	1	9	10	7.1
	金融	3	16	19	13.6
	マスコミ・情報	3	2	5	3.6
	教育・学習支援	0	3	3	2.1
	サービス	4	16	20	14.3
	公共・その他	6	7	13	9.3
進学	大学院	10	22	32	22.9
	その他	1	6	7	5.0
未定・その他		8	9	17	12.1
合計		42	98	140	100.0



わたしの学生生活



新しい世界

岡田 杏奈さん [心理学部心理学科2年次生]

大学生になったことで、確実に変わったところは自分の世界が広がったということです。それは物理的にも心理的にも、です。友達と出かけるときだけでなく一人で出かける時も今までの行動範囲なんかと比べ物にならないくらい遠くに行くことも増えた。また、明らかに付き合う人々の種類が増えた。自分とは全く違う考えを持つ人、似通った考えを持つ人、今まで出会ったことのない考え方を持つ人などに出会った。それは1年次に行われた実験演習やファーストイヤーセミナーでの話し合いやアイデアの交換、他サークル活動などで体験できた。もともと人と関わるのが下手な自分が、強制的にでも関わらなければいけない状況を作り出して頂いたおかげでいろいろなタイプの人間と関わることにだいぶ慣れることが出来た。さらに今までと違って相手の意見を聞き入れて自分の考え方を客観的に見直すことも学ぶことができた。

上手くいかないことも何度もあって落ち込んだりしてい

ると、周りの人がいとも簡単に元気づけてくれるし本当に優しい人が多くてすごく感謝しています。

1年次生の間は初めての大学生活だから勉強の方も大変だったけど、せっかくあらゆる守備範囲が広がったものだから出来るだけ自分のしたい事をするようにしていました。したいことをするというよりも、出来るように頑張るという感じでした。自分が行動しなければならにも始まらないってことを学んだし、自分のしたい事も出来ないし、何より自分が楽しくないということを学んだ。自ら行動を起こすわけなので困難もあるけれど、その裏に楽しさが秘められている事を知ることができました。

せっかく同志社というあらゆる施設や行事が整った中で自分のやりたいことをしないなんて、とても勿体無いと思うからこれから出来るだけ色々なことに挑戦していきたいです。



心理学との出会い

冷牟田 将吾さん [心理学部心理学科2年次生]

キャンパスで2度目の桜を見て、ようやく入学してから今までの自分を振り返ることが出来ました。忙しいというよりも慌ただしい、そんな1年であったような気がします。

心理学の世界に踏み込んで—まだまだ入口に立っただけですが—非常に自分に合った学問ではないかと感じました。入学してからサークル活動、アルバイト、ボランティアなど、様々な事を経験していくうちに、それまでの自分の視野の狭さを痛感しました。思っていたものをはるかに超える世界の広さに最初はとても戸惑いました。世間には非常に多様な価値観や個性が存在し、それらが調和したりしなかったりで社会が形成されていきます。特に調和しないケースというのは、案外我々の身近な所にもあったりするものです。ある時から私は様々な活動の中で、そういった不調和のようなものに関心が向くようになっていきました。どうしたら問題が解決できるだろうか、もっと上手くいく方法は何かないだろうか。その答えを探していくときヒントとなったのが、大学の心理学で教わった事だったのです。人のいるところにはすべ

て心理学が存在する、といわれるように、身の回りで活かせるという側面を実感したことで、ますます心理学部に入って良かったなと思いました。

また、大学に入ってから様々な方との出会いがあり、非常に多くの刺激を受けることができています。意識を高く持って、資格試験や語学力向上のため勉強している方や、寝る間も惜しんでサークル活動に熱心に取り組んでいる方など、方向はそれぞれですが、自分も感化され、向上心を持つことができます。また、そのような同じ活動を通じて出来る友人はかけがえのない存在です。すべてが自分の人生の糧になると考え、両親や周りの方々に感謝をしながら今後も一歩ずつ、前へ進んでいきたいと思っています。

在学生PHOTOアルバム ～学生生活の一コマより～





大学生になったら、友達 100 人できるかな♪

久田 智之さん [心理学部心理学科3年次生]

そんな幻想を抱いて入学したあの日から、早3年…北国生まれの私にとって、聞き苦しささえ感じられた関西弁にも、なんだか趣が出てきました。関西もなかなか良いものです。

前置きはさておき、大学とは、文字通り“大”きく“学”ぶ場であると言えるのではないのでしょうか。学校の授業に始まり、サークルやアルバイト、余暇の過ごし方に至るまで、全てが勉強になります。専攻する心理学に関して言えば、素晴らしい先生方の下で最先端の知識が得られます。しかし、それだけでは活きた知識にはなりません。政治のこと、経済のこと、生物や物理のこと…社会の様々な視点から物事を捉えることができ初めて、個々の知識に繋がりが出てくるのを感じます。もちろん、こうした内容は、書物やgoogleから学んだり、友人から直接教えてもらったりします。時には、アルバイト先の塾において、生徒に教えながら一緒に学ぶこともあります。時間をかけて、好きなものを好きな方法で

自由に学ぶことができるのは、まさに大学生の特権と言えるのではないのでしょうか。このようなことを書き連ねると、「真面目すぎる」という人も出てくるでしょう。否定はしませんが、一言だけ加えておきます。お酒の席において、呂律も回らないような友人が漏らした一言から学び取れることもあるのです。要するに、生活の全てが勉強へとつながっている気がします。私は、4年間という長いようで短い貴重なこの時間を、余すことなく存分に味わいたいと思っています。留学するもよし、コンクールに応募するもよし、ボランティアに参加するもよし…（直近の目標は、探偵ナイトスクープに出演することですが…）全ては社会に出ていくための準備だと思います。今後もあらゆることに挑戦し、たくさんの人と出会って様々な考え方を知ることができれば幸いです。しかしながら、最近では、飲み会の誘いもめっきり減った気がしますが、単なる気のせいだと思います。



ラットの名前はペーターです

豆川 望さん [心理学部心理学科3年次生]

全力。2年次生だった私が自分で定めたテーマである。興味深い心理学の専門科目、アルバイト、仲間達との時間。大学生生活を充実させようと、一つ一つに全力で取り組み楽しんだ。中でも最も時間を割いたのは「子供の成長に良い玩具の考察と企画プロジェクト」である。

これは一般教養なのだが、学生達が主体的に活動をしていく。玩具製造の過程やマーケティングを学び、業者向けの展示会に参加した。論文や本を読み調査したり、発達心理がご専門の内山先生にインタビューもさせて頂いた。また自分達でイベントを開催し、たくさんの子供たちと玩具を通して笑いあってきた。なお、この科目の受講生には色々な学部の人がある。理系は材料研究、文系は経済の知識、複合系は質問紙の統計処理というようにそれぞれの長所を活かした。

私は一応心理学部の端くれだ。得た知識を使わない手はない。何が子供の成長に良いか検討するために論文を読んだ際には、神経情報科学の講義で得た、脳内物質の知識が役立った。企画した玩具の対象年齢を設定する際には、発達心理学

の観点が。メンバー達をまとめ、個々の満足度を高めるために、リーダーとしてどうあるべきか、は社会心理学を参考に自分なりに実践してみた。ある日私は思い出した。本学部のパンフレットで、身の回りの全てが研究対象になる、と書いてあったことを。す…すごいぞ、心理学！

3年次生になり、プロジェクトではアシスタントとして受講生に助言をしている。そして現在、選択必修の神経・行動心理学実験演習が少人数で楽しくて仕方がない。私は春学期の前半にラットでの学習、後半に脈拍や血圧等と心の関わりを探る精神生理学を学ぶ。

もう気づけば学生生活も残り半分を切っている。社会へ羽ばたくカウントダウンは既に始まっているのだ。愛くるしいラットちゃん達、心理の仲間達との別れの日は確実に迫っている。一日、一日。本年度のテーマは、「丁寧に生きよう。」

※心理学部ホームページにも多数の写真を掲載しています。(裏表紙参照)





本気で学び、本気で遊べ。

吉川 忠男

(心理学部心理学科1年次生 吉川 旺佑)

京田辺キャンパスの一期生として登ったあの坂を、27年の時を経て息子もまた毎朝登ることになり、不思議なようなこそばいような嬉しさを感じる。バブルに浮いた私の世代とは違い、先の見えない世の中を生きる今の子どもたちは本当に大変だ。心理学部というと「読心術」でも学ぶのか？と不謹慎な私は考えてしまうがそうでもないのだろう。思えば自然現象以外のこの世の出来事はすべて人間の心理がひき起こしている。一人の心理によって起ることもあれば、大衆の心理・意思の総体として世の中が動くこともある。恋愛も戦争も世界記録も景気もすべて人の心理に基づく意思が動かしている。そう考えると心理学はこの混沌とした世の中にこそ学ぶ意味が深く、また知的好奇心をくすぐられることこの上ない学問だと思う。今は大学を出たからといって前途洋々の将来が約束される世の中ではない。しかし同志社大学心理学部で学ぶことは、これからの長い人生の標を見つける幸運なチャンスだと私は思う。4年間の恵まれた時間を本気で学び、本気で遊べ！たくさんの先生の話聴き、本を読み、音楽を聴き、友達と語り、笑い、ぶつかり…どんなことでも自分の頭で考え、自分のハートで感じる大人になってほしいと切に願う。まさに「理」を究め、「心」を尽くすことができる人になることこそが同志社の門をくぐり、ここで心理学を学ぶ本当の意味ではないか。と、門外漢ながら同じ学び舎に通ったオヤジは思う。

父より



種子をあげよう

吉田 功

(心理学部心理学科1年次生 吉田 拓哉)

一年前の今頃、まさか息子が心理学部の学生になるとはまったく思っていなかった。「文系」家族の中でただ一人理系科目が得意で、進学先は理工系に違いないと考えていたからである。高校3年生の途中から心理学部へ進学すると言いだした時、私自身の勝手な思いで「考え直したら」と返してしまった。その後本人の進路希望を尊重し応援したもの、その時のその一言を今でも後悔している。

約30年前、自分自身が学生の頃は、自分の部屋には何種類かの辞書と鉛筆立て、脇にラジカセ、本棚がある程度だったのが、今やパソコンと電子辞書、スマートフォン…当時からすれば夢のような、いや夢にも見なかったような生活環境である。学問も科学もめまぐるしく進歩し、情報の入手速度も量も比較にならぬほどの格差がある。私の血の一部が流れているとはいえ、私の通過してきた時代とまったく異なる今を生きる青年に、私の経験でこっぴどくあつちだと水先案内をすることに無理があった。「初めて子どもをやっている」…本に書いてあったこの言葉に沿って、もう少しおおらかに“今どきの子ども”わが息子を支援してやろう。他人様に迷惑をかけたり、どうにもならない苦しみに直面していない限りは、本人の意志と希望を尊重してやろう、そう悟ったのである。

谷川俊太郎さんの詩「あわてなさんな」を気に入って胸にしまっている。「花をあげようと父親は云う 種子が欲しいんだと息子は呟く 翼をあげるわと母親は云う 空が要るんだと息子は目を伏せる 道を覚えろと父親が云う 地図は要らないと息子がいなす 夢を見ないと母親が云う 目をさませよと息子がみつく 不幸にしないでと母親は泣く どうする気だと父親が叫ぶ あわてなさんなと息子は笑う 父親の若い頃そっくりの笑顔で」。私の役目は学費を納めること、それで息子は“種子”を手にする。同志社のキャンパス、そこから広がるひとの繋がり、フィールドが“空”であろう。どうか父親が経験しなかったような学生生活を謳歌してほしいと願っている。

父より



家族造形法で高まる面接の力

心理学部心理学科 興津 真理子 准教授

家族とは一番小さい、そして人生で一番最初に体験する社会である。人が集まるところには様々な力動が働き、幅をきかす人がいれば、反対に割を食う人がいるのが常である。私は臨床心理士でもあり、心理臨床センターやクリニックでカウンセリング（以下面接）もしているが、そこで出会う方は家族の中で割を食ってきている人が多い。誰かを気遣って言いたいことが言えない人、本当は誰かを頼りたいときに我慢してきた人、自分も不安だけど、もっと不安な家族のために辛抱してきた人、家族が上手くいくために黙ってスケープゴートになってきた人…家族の中でのそんな自分の話をしていくことで、現在身近な対人関係や面接の中で同じようなパターンが繰り返されていることを発見し、違うパターンを培い、家族で苦労してきた自分を十分ねぎらって、新たな歩みを模索していくことが目指すところである。

さて、こうした面接のなかでは、その人の内的対象としての家族がどのようなものか、あるいは家族の中でその人がどのような気持ちであったのか、それをわかるようにカウンセラーは努めるが、カウンセラーだって自分の家族だけに体験していないし、相手はこちらの想像が追いつかないような体験を家族の中でして

おられることも多い。そんな時に役に立っているのが「家族造形法」による事例検討である。家族造形とは家族を彫刻のように見立てて配置することによって家族を見立て、介入する家族療法の一技法である。もともとは来談のご家族に対して行う技法だが、彫刻家役を事例提出者がとり、面接で聴いているクライアントの家族のイメージを造形することで事例検討にも利用できる。具体的には事例提出者が、家族メンバーの役割をとってくれている事例検討会のメンバーを、粘土のかたまりと思って距離や向きに配慮しながら配置し、姿勢、視線、表情などを作って家族を表現するのである。全員を配置後、1分程度静止し、感情や感覚に集中し、どのような感情がわいてきたかなどをお互いにフィードバックする。これによって捉えにくいクライアントの感情や体験に少し近づくことができる。事例検討後、面接の中に直接的、間接的にこちらの理解が反映されることで、行き詰っていたところが進展することもある。

この技法の利用が面接そのもののだけでなく、カウンセラーの養成にも役立っていることが報告されているが、まだ実証的な研究は少ない。自分にとって役立ってきたこの技法を伝える研究、実践が目下の課題である。



“聴く”ことを科学する

心理学部心理学科 河越 隼人 助手

私の専門であるカウンセリング心理学の領域では、話を“聴く”ということを大切にしています。一般的には“聞く”ということばを用いることが多いのですが、我々の領域では“聴く”ということばを用います。これは、ただ何となく話を聞くのではなく、相手を理解するために積極的にかかわるという姿勢を意味しています。今回は、“聴く”ために大切なことは何かを考えてみたいと思います。

多くの方が、「話をきいてくれてありがとう」といわれたことがあると思います。反対に、「もっとちゃんと話をきいてよ」といわれたこともあるでしょう。これらの違いを生む原因は何だったのでしょうか。考えられるものの一つに、視線の合わせ方という問題が挙げられます。多くの場合、視線を合わせずにいると、相手は話を聴いてもらえていないと感じます。これは経験的にも分かりやすいことでしょう。それでは、視線を合わせて話をきくとどうなるのでしょうか。確かに、視線を合わせることで、相手は話を聴いてもらえていると感じるようになります。しかし、ただ視線を合わせれば良いという訳でもありません。人が向かい合って会話する際に視線を合わせる時間は、欧米諸国の人で会話時間の6割、日本人では2、3割といわ

れており、視線を合わせすぎると効果的でないことが分かっています。

話を聴くためには、言語的なコミュニケーションも重要です。例えば、聴き手が相手の洞察を深めるように質問し、話の中に見え隠れる感情を上手く捉えていくことで、話し手はより聴いてもらっていることを実感します。その他にも、話を聴く際に重要なポイントは紹介しきれないほどありますが、ここで私が強調しておきたいことは、これらの行為の有効性はすべて科学的に証明されているということです。

カウンセリング心理学では、話を聴く際に効果的な要因となるものを科学的に検討し、それらを実践応用可能な形に置き換えていきます。カウンセリング場面における聴くという行為は、個人の人生経験に基づいて可能になるような不確かなものではなく、科学的にその有効性が支持された確かな技術でなければなりません（人間のかかわり合いである以上、技術だけでも上手くいきません）。近年では、話を聴く専門家である臨床心理士と呼ばれる人たちも、こういった聴くための技術を学んでいます。心理学部の皆さんにも、ぜひ“聴く”ことを科学してもらいたいと思います。

新任教員



きくたに まりこ 助教
菊谷 まり子 助教

①研究分野・領域：認知心理学、異文化心理学

②研究テーマ：

人の顔認識や表情認識のメカニズム、言語や文化が視覚刺激の認識や社会行動に与える影響についての研究

③学生へメッセージ：

これからどうぞよろしくお願いいたします。大学時代は自分を開拓する大切な時期です。何事にも勇敢にチャレンジして、色々なことを体験してください。私は修士号を取りにイギリスに留学してから7年間滞在したり、4ヶ月かけて海外旅行をしたり、一般企業に勤めたり、今まで色々やってきました。心理学の勉強についてはもちろんですが、他のことでも皆さんの相談にのってサポートをしていけたらと思っています。皆さん気軽に声をかけてくださいね。

新任職員



よしだ まさのり 係長
吉田 雅典 係長

①所属：心理学部・心理学研究科事務室(教務センター担当)

②学生へメッセージ：

教育・研究支援に尽力いたします。



むらた ひろこ 実習助手
村田 浩子 実習助手

①所属：心理学実験準備室(知証館南館)

②学生へメッセージ：

皆さんが充実した学生生活を過ごせるようにサポートします！



かわた えみ 実習助手
河田 江美 実習助手

①所属：心理学実験準備室(香柏館)

②学生へメッセージ：

全力で同志社心理を支えます！

■ 心理学部・心理学部父母会行事

同志社キャンパスフェスタ／心理学部地方懇談会 案内

キャンパスフェスタは、卒業生・学生父母・受験生対象に開催される同志社大学のイベントです。著名人による講演会、入試説明会などが行われます。父母会では、心理学部地方懇談会を同時開催しますので、地域にお住まいの皆様、奮ってのご参加をお待ちしています。詳しくは、先日郵送のご案内もしくは心理学部父母会ホームページをご覧ください。

(ホームページのログイン方法は裏表紙に掲載しています)



2013年度同志社キャンパスフェスタ／心理学部地方懇談会 開催日程・会場

日 程	開 催 地	会 場
7月15日(月・祝)	岐 阜	ホテルグランヴェール岐山 JR岐阜駅 バス9分
7月20日(土)	福 島	ホテルハマツ JR郡山駅 徒歩20分
10月5日(土)	東 京	秋葉原UDX JR秋葉原駅 徒歩2分
10月12日(土)	大 分	トキハ会館 JR大分駅 徒歩4分
11月3日(日)	京 都	京田辺キャンパス
11月4日(月・祝)	高 知	高知プリンスホテル JR高知駅 車5分
11月17日(日)	秋 田	パーティーギャラリーイヤタカ JR秋田駅 徒歩8分
11月24日(日)	山 口	ホテルニュータナカ JR湯田温泉駅 徒歩8分

■ 2013年度 学部学年暦

春学期

春学期	2013年			
	4月1日(月)	春学期始め・春学期入学式		
	2日(火)	春学期入学式(国際教育インスティテュート)		
	2日(火)	新入学生履修指導期間	履修科目登録期間	
	3日(水)			
	4日(木)			
	5日(金)			
	6日(土)			
	7日(日)			
	8日(月)	講義開始		
	26日(金)	春学期学費納入最終日		
	4月29日(月)	休日		
	5月6日(月)			
	7月15日(月)	海の日(授業日)		
	29日(月)	講義最終日		
	30日(火)	期末試験開始		
	8月10日(土)	期末試験終了		
	11日(日)	夏期休暇開始		
	9月15日(日)	夏期休暇終了		
	16日(月)	在学生成績通知書配付		
	20日(金)	春学期終り		
	28日(土)	春学期卒業式・学位授与式		

秋学期

秋学期	9月21日(土)	秋学期始め・秋学期入学式
	23日(月)	履修科目登録変更
	24日(火)	
	25日(水)	講義開始
	10月14日(月)	体育の日(授業日)
	31日(木)	秋学期学費納入最終日
	11月3日(日)	同志社クローバー祭 (スポーツフェスティバル)
	4日(月)	
	26日(火)	創立記念行事週間(休講)
	27日(水)	
	28日(木)	創立記念日(休日)
	29日(金)	
	12月23日(月)	天皇誕生日(授業日)
	25日(水)	キリスト降誕日(休日)・冬期休暇開始
	2014年	
	1月5日(日)	冬期休暇終了
	6日(月)	講義再開
	23日(木)	創立者永眠の日
	27日(月)	講義最終日
	28日(火)	期末試験開始
	2月17日(月)	期末試験終了
	3月上旬	卒業可否発表
	3月20日(木)	秋学期卒業式・学位授与式
	21日(金)	
	22日(土)	在学生成績通知書配付
	25日(火)	
	31日(月)	秋学期終り

(名称)

第1条 本会は、同志社大学心理学部父母会と称する。

(目的)

第2条 本会は、同志社大学心理学部(以下「学部」という。))の教育方針に則り、教員と学部在籍する学生の父母又はこれに準ずる者(以下「学生の父母」という。))との連絡を密にし、学生の就学を支援するとともに、学部の教育研究事業を援助し、学部の充実発展に寄与することを目的とする。

(会員)

第3条 本会は、次の会員をもって組織する。

- (1) 父母会員 学生の父母
- (2) 参与会員 学部所属する専任教職員 若干名
- (3) 賛助会員 本会の趣旨に賛同し、これに援助を与える者

(事業)

第4条 本会は、その目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 学部と学生の父母との連絡を図る行事
- (2) 学生の教育、厚生、就職等に必要事業に対する援助
- (3) 学部の教育研究上、必要な施設の拡充及び学術研究に対する援助
- (4) 会報の発行及び配付
- (5) その他本会の目的を達成するために必要と認めた事業

(総会)

第5条 本会に総会を置く。総会は定期総会と臨時総会とする。

- 2 定期総会は毎年1回開催し、臨時総会は役員会の議を経て臨時に開催する。
- 3 総会は全会員をもって構成し、会長が議長となる。
- 4 総会の議事は、出席者の過半数をもって決定する。
- 5 定期総会は、次の事項を決定する。
 - (1) 役員の選出
 - (2) 会則の改正
 - (3) 事業計画、予算及び決算
 - (4) その他重要事項

(役員及び役員会)

第6条 本会は、事業推進と企画立案のため次の役員を置き、その役員をもって役員会を構成する。

- (1) 会 長 1名
- (2) 副会長 2名
- (3) 会 計 1名
- (4) 委 員 若干名
- (5) 監 事 1名

第7条 役員は、次の方法によって選任する。

- (1) 父母会員の中から選出する。
- (2) 役員は、役員会の推挙により、定期総会に諮って決定する。

第8条 役員は、次の職務を行う。

- (1) 会長は、会務を統括し、本会を代表する。
- (2) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代行する。
- (3) 会計は、本会の会計を管理する。
- (4) 監事は、本会の会務及び会計を監査する。

第9条 役員の任期は1年とする。ただし、重任を妨げない。

第10条 役員会は、必要に応じ適宜開催し、次の事項を審議し、本会の事業を実施する。

- (1) 役員の推挙
- (2) 会則改正案の作成
- (3) 事業計画案、予算案及び決算案の作成
- (4) その他会務の運営、執行に関する事項

第11条 役員会は、緊急を要する案件は、総会に代り、審議、決定することができる。ただし、役員会で決定した事項は、総会において報告しなければならない。

第12条 役員会は、必要に応じて、この会則の施行に伴う細則、規程を定めることができる。

(運営資金)

第13条 本会の運営は、父母会員費、寄付金及びその他の収入による。

(父母会員費)

第14条 父母会員費は、学期額3,000円とする。ただし、学生が休学する場合は、父母会員費を免除する。

- 2 父母会員費は、毎学期の始めに納入しなければならない。
- 3 父母会員費の徴収は、大学に委託して行う。

(会計年度)

第15条 本会の会計年度は、毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

(事務局及び職員)

第16条 本会の事務局を心理学部事務室内に設ける。

- 2 本会は、本会の庶務会計等の業務を処理するため、職員を置く。

附 則

この会則は、2009年7月18日から施行する。

心理学部ホームページを
ご活用ください！
詳しい情報を随時発信
してまいります。



同志社大学心理学部

検索

<http://psych.doshisha.ac.jp/index.html>



●重要なお知らせ

「心理学部父母会」ページのログインにはパスワードの入力が必要です。パスワードは毎春号にてお知らせします。

●2013年度心理学部父母会ログインパスワード

[phpobfs13]半角英数字

「在学生の方へフォトアルバム」ページもぜひご覧ください。お子様たちの活動写真を掲載しています。

こちらログインにはパスワードの入力が必要です。

●2013年度心理学部フォトアルバムログインパスワード

[stphoto2013]半角英数字

ご父母のさまざまなご意見・感想などお待ちしております。下記までご一報ください。



同志社大学 心理学部父母会会報 第8号

2013年6月21日

編集・発行／同志社大学心理学部父母会

〒610-0394 京都府京田辺市多々羅都谷1-3

TEL : 0774-65-8220 FAX : 0774-65-8223

E-mail : snr-fubo@mail.doshisha.ac.jp

印刷／株式会社 石田大成社